

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第34週（8月23日～8月29日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、密閉・密集・密接の回避が重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 再び増加」

第34週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は1,040例であり、前週比17.5%増であった。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、突発性発しん、流行性角結膜炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ2.42、1.57、0.32、0.31、0.30である。

感染性胃腸炎は前週比11%増の480例で、北河内・中河内3.15、南河内3.06、大阪市南部2.89、三島2.65であった。

RSウイルス感染症は前週比27%増の311例で、大阪市北部3.64、北河内2.65、南河内2.50である。

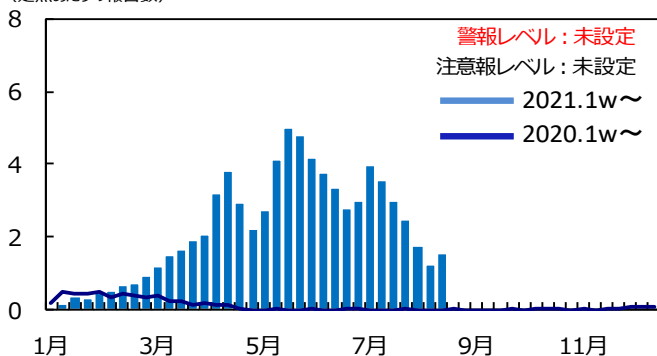
流行性角結膜炎は前週の3例から4倍増の16例で、泉州0.83、中河内0.60、南河内0.50であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比28%増の60例で、中河内0.60、大阪市北部0.50、南河内0.44である。

RSウイルス感染症

感染性胃腸炎

(定点あたりの報告数)



(定点あたりの報告数)

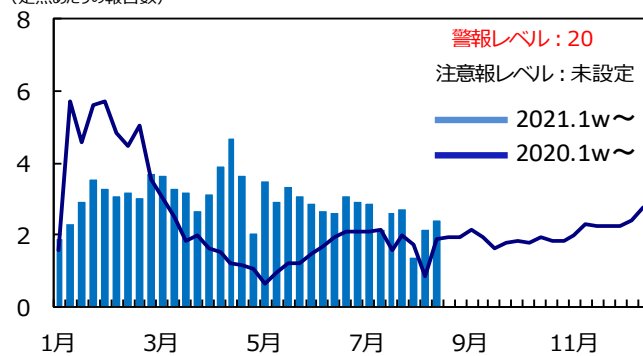


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第34週8月23日～8月29日）

第34週の順位	第33週の順位	感染症	2021年 第34週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第34週の 定点あたり 報告数	2021年第34週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	2.42	11%増	1.87	1歳_22%
2	2	RSウイルス感染症	1.57	27%増	0.01	1歳_30%
3	3	突発性発しん	0.32	23%増	0.47	1歳_45%
4	10	流行性角結膜炎	0.31	433%増	0.17	20歳以上_75%
5	5	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.30	28%増	0.39	4歳_18%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021年第10週まででインフルエンザのコメントを終了しました。

第34週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～

基本的な予防の徹底を（マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避）

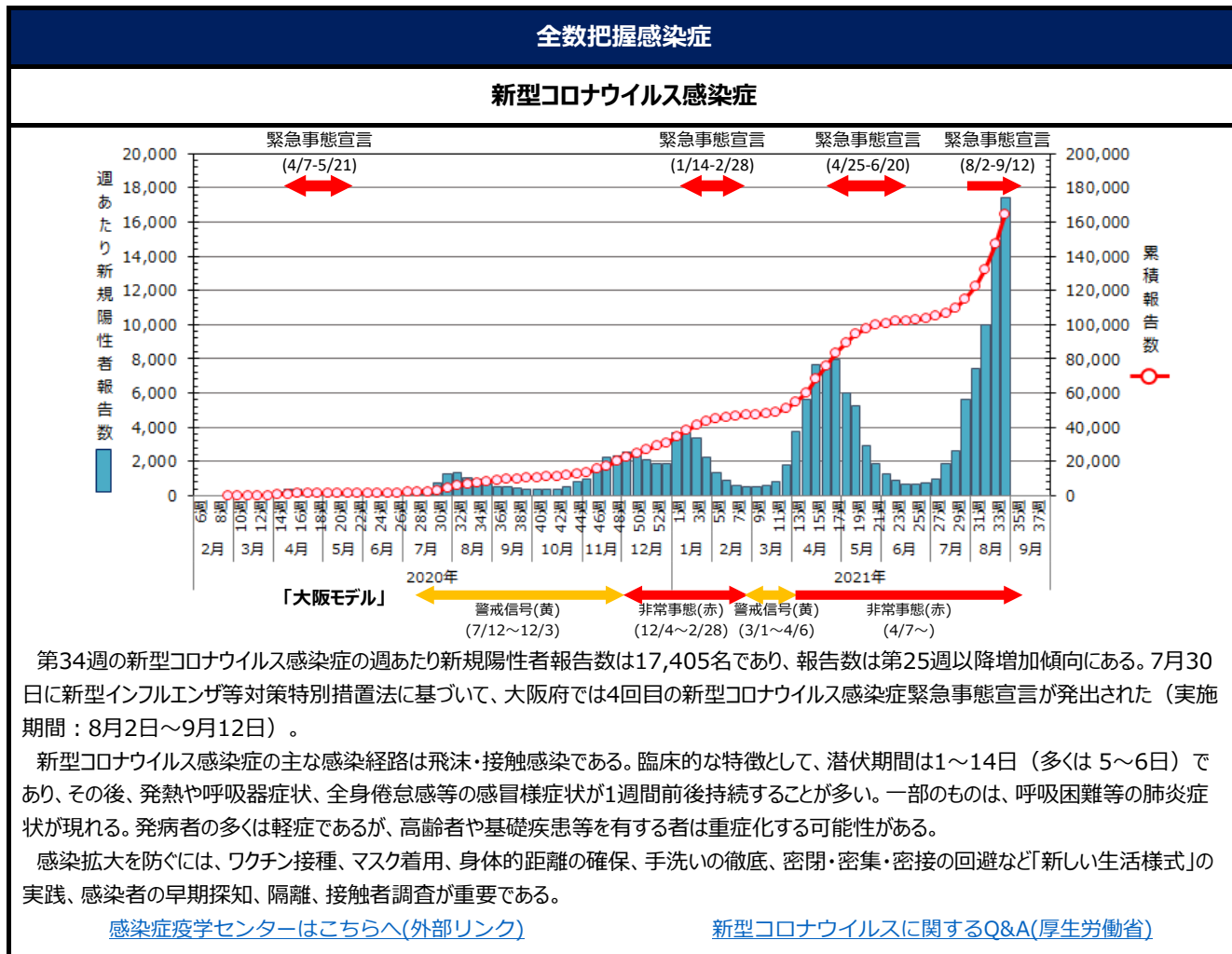


表 2. 大阪府全数報告数（2021年 第34週8月23日～8月29日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7	1	1	1					4	104
4類感染症	マラリア（熱帯熱）	1								1	4
	レジオネラ症（肺炎型）	3		1		1				1	79
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1			1						110
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1	23
	後天性免疫不全症候群	1								1	63
	ジアルジア症	1			1						1
	侵襲性肺炎球菌感染症	2		1						1	65
	梅毒	10	1					1	1	7	470
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	17,405	2020年1月以降累計								164,773
結核 (2021年6月分)	結核 新登録患者数：59名	(内 肺・喀痰塗抹陽性 19名) (府内累積報告数 468名、内 肺・喀痰塗抹陽性 157名)									

(2021年8月31日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。